

二中の木

学校報
第9号
H29/09/14



能代市立
能代第二中学校
TEL52-5138

二中祭・二中若は、 歓喜と感動を巻き起こし！

9月3日(日)には二中祭、同じく9日(土)には二中若が開催、運行されました。70周年節目の年であることを生徒も十分に理解し、今の自分達にできる精一杯を能代の町に発信しようと頑張りました。二中祭テーマは「TREASUREを守ろう二中の宝、見つけよう71年目の宝物」、二中若テーマは「魅せよう迫力のある二中若！届けよう感動のパフォーマンス！」。テーマからも意識の高さが感じられます。

二中祭での発信！



二中祭も二中若も、生徒の心の中には、どちらも、自分達が楽しむためだけにやるのではない。」という思いが染みこんでいます。作品、パフォーマンス、パフォー地域の方々の交流を通して「二中の今」を発信したい、地域と共にある二中であることを発信したい

と言う思いは、年々強くなっているように見受けられます。

「白金によせて」14号 生徒作品
生まれたばかりの校舎には
何一つとして足跡がない
この白亜の新校舎がまた
木造校舎と同じ歴史を育む
道を閉ざされたら
校訓を思い出してほしい
二中魂とも言える
自主 不屈 友愛」を
校訓から学んだこととは
いったい何だったのだろうか
自らを高めようとする気概と
新たな自分を生み出すこと
はなかったか
潔く変わり、成長し続ける
自分であることを願いとして
この一冊に寄せるのである

二中若での発信！

9月10日(日)付けの北羽新聞に掲載された、創立70周年に係る広告にもあった文章です。丁度三十年前、私が生徒会を担当していた時の生徒の作品です。紙面スペースの関係から、私の責任で編集しています。
40周年当時の生徒も現在の生徒も、校訓に寄せる思いには並ならぬものがあるようです。



9日(土)、暑さの残る傾きかけた陽の光を受けながら全校生徒は校舎を後にし、出発地点である駅前へと向かいました。学校で行った出発前集会で生徒の意気込みは、凜とした表情や目の輝きによく表れていました。成功を予感させるに余りあるものでした。
駅前での待機の後、厚木先生の「それでは行きましようか。」の声掛けで、応援を含んだ五百名にもなるうかという二中若が大きくうねり始めました。灯籠や田楽の明かりに、紅潮した生徒の

顔が美しく浮かび上がります。二中祭から間もない日数でしたが、持ち前の動と静、メリハリを上手に使いこなし練習に励んできました。

○先導のポップな横断幕と明るい表情は、新聞記者さんからお褒めの言葉をいただきました。○田楽の息の合った「チヨレゴ」と最後まで衰えぬ元気は、ここ



数年でトップクラス。○音頭上げは、調子をなぞるのでなく謡うことが目標でした。出来ましたよ、観客を惹き付けることが。○曳き手の道中での盛り上げや威勢の良さは好評でした。○太鼓の腕の上げ方伸ばし方は、力強さと美しささえ感じさせてくれましたよ。○笛の豊かな調べは、時に若をリードし時に若を後押しするペイスメーカーの役目を見事に果たしました。○踊りは、掛け声を切らすことなく飛び跳ねるような躍動感を表現し続けました。
皆さんの発信は周囲の観客、地域の方々、ご家族、先生方に「迫力」をしかりと届けました。あの瞬間を大切にしたいです。準備を含め、関わってくださった保護者の方々は、延べ二百名です。深く感謝申し上げます。【終】